

## (8) 近畿



近畿地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直している。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

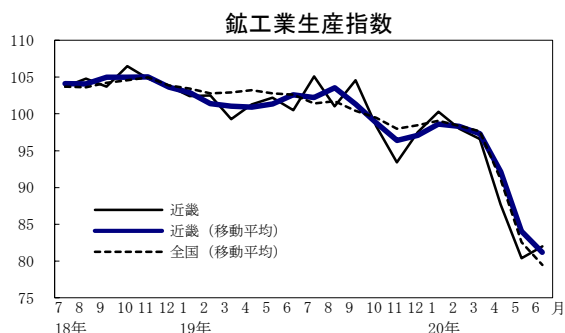
### 前回からの主要変更点

	前回（令和2年5月）	今回（令和2年9月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、このところ持ち直しの動きがみられる	↑
鉱工業生産	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	一部に持ち直しの動きがみられる	↑
個人消費	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	このところ持ち直している	↑
雇用情勢	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	感染症の影響により、弱い動きとなっている	→

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に持ち直しの動きがみられる。

4-6月期には、化学は、減少した。電気・情報通信機械は、減少した。汎用・業務用機械は、汎用内燃機関等が減少したことにより、減少した。生産用機械は、シヨベル系掘削機械等が減少したことにより、減少した。輸送機械は、航空機用発動機部品等が減少したことにより、減少した。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。  
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
化学	12.4	▲0.6	▲7.9	▲1.1	▲5.3	▲6.4
電気・情報通信機械	11.7	▲7.2	▲6.6	0.8	▲5.0	7.8
汎用・業務用機械	10.4	8.2	▲16.2	▲13.8	▲13.7	▲9.6
生産用機械	10.1	10.3	▲18.9	▲12.5	▲12.6	27.7
輸送機械	8.7	10.1	▲39.9	▲38.3	▲4.7	7.8
鉱工業	100.0	2.0	▲15.2	▲9.2	▲8.3	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 4-6月期、6月は速報値。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直している。

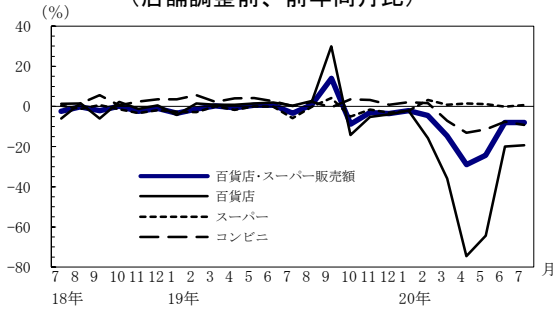
### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比9.7%減、5月は同0.4%減、6月は同8.3%増となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

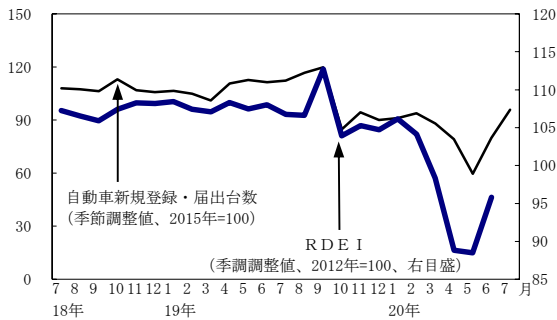
緊急事態宣言等に伴う休業や営業時間の短縮が実施されるなか、4月は前年同月比28.9%減、5月は同24.3%減となった。6月は、同8.0%減となったが、緊急事態宣言解除に伴う営業再開等により、減少幅は縮小している。7月は同8.0%減となった。

百貨店・スーパー販売額等  
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年4-6月	2020年4月	5月	6月	7月
RDEI (消費*1)	▲11.5	▲9.7	▲0.4	8.3	—
百貨店・スーパー(*2)	▲20.4	▲28.9	▲24.3	▲8.0	▲8.0
百貨店(*3)	▲52.8	▲74.6	▲64.3	▲19.9	▲19.3
スーパー(*3)	0.9	1.5	1.2	▲0.1	0.6
コンビニ(*3)	▲10.8	▲13.1	▲11.5	▲7.7	▲9.3
乗用車(*4)	▲34.1	▲30.5	▲48.8	▲24.1	▲14.9
(季節調整値) (*4)	▲19.9	▲10.1	▲24.6	33.9	19.9

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。  
2020年7月は速報値。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)  
百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。  
2020年7月は速報値。

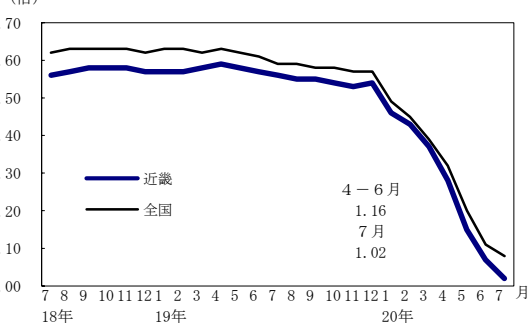
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

## 3. 雇用情勢

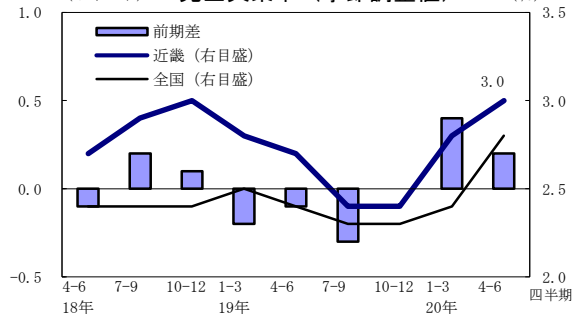
雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっている。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年7月調査) 景気判断理由の概要

8. 近畿

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連		・分譲マンション市場では販売活動が再開し、客は少しずつ戻っているものの、高価格帯を中心に動きはまだまだ鈍い(その他住宅[情報誌])
			・通信会社の主導による時短営業が解消されている(通信会社)
			・天候不順や新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、7月中旬から回復の動きが失速し始めている(一般レストラン)
	企業 動向 関連		・受注量は減少したままである(パルプ・紙・紙加工品製造業)
×		・インターネット経由の引き合いは活発であるが、特に海外との往来ができないため、仕事が進まない(電気機械器具製造業) ・新型コロナウイルスの影響で、明らかに受注量が減少している(出版・印刷・同関連産業)	
雇用 関連		・保育園での業務については、基本的には自粛もないため、特に変わらない(アウトソーシング企業)	
	×	・企業へのヒアリングでは、新型コロナウイルスの影響で、採用活動をインターンシップへの参加者のみで終了したというケースが出始めている(学校[大学]) ・新型コロナウイルスの影響が広がっている。感染者数は一旦小康状態になったが、再び増加傾向にあり、関西の地元企業の動きは更に鈍くなっている(新聞社[求人広告])	
その他の特徴 コメント			：自動車各社の工場の稼働が進み、関連業界の先行きに明るさが出てきているが、採算ラインに乗るまでには時間が掛かる(金属製品製造業) ：営業が再開したものの、まだ世の中の情勢は、観光や娯楽にお金を使おうとする状況には戻っていない(テーマパーク)
先行き	家計 動向 関連		・新型コロナウイルスによる新しい生活スタイルが定着し、今の状況が続くと予想される(スーパー)
			・Go To Travelキャンペーンの仮枠の承認が下りたものの、関連の予約が前年実績の10%程度しかないため、逆に断らざるを得ないケースも出てきそうである(旅行代理店)
	企業 動向 関連		・学校や幼稚園、保育園関連の得意先は前年並みにまで戻ったが、その他の得意先、特に飲食店やホテル関連は、全く回復の兆しがみられない(化学工業)
			・新型コロナウイルスの感染者が再び急増しているため、感染の拡大防止策が重要となる。経済にブレーキが掛かるのはやむを得ない(司法書士)
雇用 関連		・新型コロナウイルスの感染者が、現在のように増減を繰り返すと予想されるため、景気が上向くとは考えにくい(民間職業紹介機関)	
その他の特徴 コメント			：Go To Travelキャンペーンの効果が浸透する(高級レストラン) ：法人の利用が良くなく、自粛の状態が続いている。秋口までの大きな会合は、全てキャンセルか延期となっている(都市型ホテル)

(D I) 現状・先行き判断D Iの(近畿)推移(季節調整値)

